

広報 きたもと

きつと、もつと、きたもとが好きになる 旬な話題をお届け!



北本市

北本市は今年11月に市制50周年を迎えました

12月
2021 No.1006

特集面

特集1 「きたもとで挑戦したい」を応援する



北本デジタルアーカイブズプロジェクト



北本団地商店街「まちの工作室」プロジェクト



長期保存可能な無添加クッキー開発プロジェクト



北本トマトを生かしたお酒「クラフトスピリッツ」プロジェクト

特集2 声で伝える、繋がる。



団地にみんなが工作できる場所を作りたい!

—北本団地商店街【まちの工作室】プロジェクト—

目標金額 200万円
使い道 設計費、改装費等
提案者 合同会社暮らしの編集室



詳しい内容と、ふるさと納税を通じた支援はこちらから

北本団地とジャズ喫茶「中庭」の誕生
 北本団地は令和3年に築50年を迎えました。長きに渡って地域の人々の暮らしを支えてきた北本団地ですが、高齢化と人口減少が課題となっています。それに伴い、中心部の北本団地商店街も徐々に店舗数が減って寂しい状況になっています。



▲「まちの工作室」プロジェクトメンバー



そんな北本団地商店街に、私たち「暮らしの編集室」が今年6月に新たなお店「中庭」をオープン。廃れかけていた団地に灯ったこの希望の明かりを消さずに、今後も継続的に暮らしていきたく、次なる地域にしていこうと、次の展開として【まちの工作室】を作ろうと思っています。

【まちの工作室】は、家で使うような暮らしの道具や衣食住にまつわる色々を「自分でつくる」場所です。世代を問わず、誰もが使える場所として開かれます。ミシンの使い方など得意なことを教えあったり、みんなで欠けた器を直す金継ぎをやってみたり、先生がいなくても、みんなで集まって「つくる時間」を持つと、楽しい時間が生まれます。

また、「つくる部屋」アトリエ」と「みせる部屋」ギャラリー」の二つの空間を作り、ワークショップやレンタルスペースとして場所を開放していきます。「つくる」ために集まり、また次の「つくる楽しみ」が生まれていく。そんな新しい暮らしのサイクルを生み出し、暮らしと地域の豊かな関係性を生み出します。皆様のご支援をお願いします。



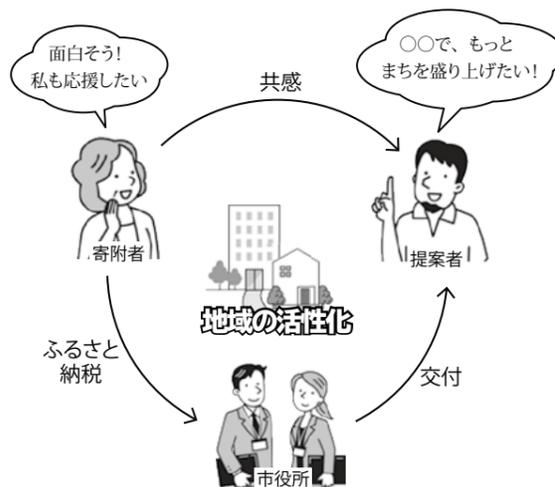
▲シャッターが続く北本団地商店街

今年誕生したジャズ喫茶「中庭」団地に新たなにぎわいが生まれた

「きたもとで挑戦したい」を応援する

—ふるさと納税型クラウドファンディング—

市長公室シティプロモーション・広報担当 (☎ 511-9119)



※このガバメントクラウドファンディングは、ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」または市役所窓口で受け付けています。

ふるさと納税型クラウドファンディングとは
 寄付をすると、住民税の控除等が受けられるふるさと納税。各地の名産品などを「お礼の品」として受け取ることができる点も大きな魅力の一つです。しかし、自分の行った寄付がどのように使われているのかが分かりづらい、という指摘もあります。そこで、北本市では「応援したい!」と思ったプロジェクトに直接寄付金を届けることができる、ふるさと納税型クラウドファンディング(ガバメントクラウドファンディング)を行っています。市民の方も寄付が可能で、皆さんのまちへの思いや、活動する人への応援の気持ちをふるさと納税という形で届けることができます。

現在、4事業について寄付を募集しています。今回の特集では、それぞれの提案者の熱い思いをお伝えします。

北本の記憶(歴史・文化)を

データ化し、後世に残したい

—北本デジタルアーカイブズプロジェクト—

目標金額 315万円
使い道 デジタル化に伴う人件費
 備品購入費等
提案者 NPO法人埼玉 SOHO



詳しい内容と、ふるさと納税を通じた支援はこちらから



▼埼玉 SOHO のプロジェクトメンバー



眠っている資料が「もったいない!」と思った
 2万以上の旧石器時代から人々が住まう北本市には、歴史的価値の高い縄文遺跡、有史以降の文書資料や、神社仏閣に関わる文化財、近年では書籍などにまとめられた刊行物など、歴史・文化・自然に関するたくさんの資料が存在しています。

しかし、現状、様々な資料がバラバラになっていたり、捨てられてしまったり、保存していても古くなって、使えなくなってしまうものも存在します。

誰もが気軽に北本の歴史にアクセスできるように
 一方で、今はパソコン等の普及によって、様々な物をデジタルで保存することが可能になりました。デジタル保存することで閲覧・利用方法に数多くの応用が可能とし、様々な表現ができるようになってきています。

今回作成するサイト「北本デジタルアーカイブズ」を通して、お子さんや、障がいを持った人まで、誰もが気軽に北本の歴史・文化に触れられるようにし、北本というまちに愛着を持てる。そんなふるさとへの自信に繋がる物にしたいと考えています。

まちのコトを知って、好きになってほしい
 また、このプロジェクトをベースに、地域活性化の場づくりをしていきたいと思っています。作成したサイトをどのようにしていくべきかを、市民(主に学生)の皆さんとディスカッションし、面白いアイデアがあれば取り入れ、より充実したものにしていきます。

当プロジェクトを、みんなで作るプロジェクトとして胸を張って世界へ発信していきたい、地域活性化のモデルケースにしたいと考えています。

ご支援のほど、よろしく申し上げます。

災害時でも、ホットところが温まるようなクッキーを

—長期保存可能な無添加クッキー開発プロジェクト—



目標金額 200万円
使い道 クッキー開発・製造費
 デザイン委託費等
提案者 クッキークル

初めまして。北本市にあるお店「クッキークル」の尾上です。「クッキークル」のお客様の中には、忙しい日々の中、クルのクッキーをバクッと頬張って「よし、もうひと頑張り」と、心の拠り所のようにしてくれている人たちがいます。

災害時にも心の拠り所になるクッキーを

いづこかで災害が起こってもおかない状況の中、「防災」への意識は日々高まりつつあります。私自身も、備蓄用の食材を購入しストックしていますが、食べるのが大好きな私としては、「災害の時、これを食べるのか・・・」という、少し残念な気持ちになっているのが正直なところです。裏の原材料表示を見ると、たっぷりの添加物が使われていて、実際に食べてみると味気ない。災害時は味にこだわっている余裕など

ないのかもしれませんが、「災害の時のためだけに、仕方なくストックしている」という状況です。まちのクッキー屋だからこそ、「いつもの味」と感じてもらえるような、地元北本市産の小麦を使った長期保存可能なクッキーを作りたいと思います。ふるさと納税型クラウドファンディングに挑戦します。

寄附していただいた皆様には、開発したクッキーをいち早く、寄附額に応じて試食していただきます。どうぞご協力をお願いいたします。

有事の時こそ、食欲がなくても気軽に口に頬張ることができ、身体に負担の少ない無添加で作りました心の拠り所となるようなクッキーをお届けしたい。

日々クッキーをお届けしている、まちのクッキー屋だからこそ、いざという時に「ああ、いつもの味だ」と感じてもらえるような、地元北本市産の小麦を使った長期保存可能なクッキーを作りたいと思います。ふるさと納税型クラウドファンディングに挑戦します。

寄附していただいた皆様には、開発したクッキーをいち早く、寄附額に応じて試食していただきます。どうぞご協力をお願いいたします。



▲クッキークルの店主 尾上由子さん



目標金額 200万円
使い道 蒸留機購入費
 デザイン委託費
提案者 株式会社ノヴァ

特産品を使った、生産者の顔が見える市民参加型のお酒をつくりたい！

—北本トマトを活かしたお酒「クラフトスピリッツ」プロジェクト—

北本とトマトの歴史

北本市は、かつて石戸村と呼ばれた地で、大正14年からトマトを栽培してまいりました。国内ではトマトがまだ珍しい時代に、アメリカに種を輸出する目的で育てていきましたが、思った以上に種の収穫量が少なく、その事業は失敗。そこで、種ではなく果肉を利用できないかと懸命に開発を重ねた結果、昭和2年に「石戸トマトクリーム」が誕生しました。国産初の無着色ピューレとしてデビューしたトマトクリームは、昭和天皇の即位を祝う博覧会で優良国産賞を受賞

し、都内有名レストラン・ホテルで取り扱われるなど、華々しい成功をおさめました。ところが、それも戦争等の影響によって長くは続かず、トマトクリームを製造していた工場は閉鎖となり、石戸トマトの名も徐々に人々の記憶から薄れていきました。

石戸トマトクリームから、「北本クラフトスピリッツ」へ

このように、トマトの深い歴史がある北本市で、「もう一度北本トマトを全国にお届けしたい！」という思いから、石戸トマトク

リームから「北本クラフトスピリッツ」へ形を変え、新しい特産品をつくるプロジェクトを立ち上げました。

「市内の生産者や市民が一生懸命育てたトマトをまるごと使い、トマトの風味をそのまま届けたい」、そう考えたときにぴったりな製品がお酒の「スピリッツ」でした。スピリッツであれば、その製造工程上、余すことなくトマトの魅力をつまみ詰めることができます。北本トマトをもう一度、国内外の皆様へお届けするため、ご協力よろしく願います。



▲北本市産のトマトから、蒸留機を使ってエキスを抽出する



株式会社ノヴァの代表取締役ブッシュー木さん

▼石戸トマトクリーム販売組合工場（昭和2年）北本トマトの歴史はここから始まった



詳しい内容と、ふるさと納税を通じた支援はこちらから

市役所窓口での寄附募集期間は令和4年 **2月15日**（火）までです。「ふるさとチョイス」サイトでの募集期間は、サイトからご確認ください。

ガバメントクラウドファンディングでは、寄附金が目標金額に達成しなくても、集まった全額が提案者に届けられるので、寄附金は必ず応援したプロジェクトを実現する原資になります。「応援したい」を直接届けられるクラウドファンディング。市民の皆さんからの寄附も税額控除の対象となります。ぜひ、ご支援をお願いいたします。手続きなど、ご不明な点がある場合は市長公室シティプロモーション・広報担当（☎ 511-9119）へご連絡ください。

北本市クラウドファンディングページはこちら▼



昨年度実施した2プロジェクトについて、皆さんからたくさんの応援をいただきました。ありがとうございました。

・北本団地活性化プロジェクト（提案者：合同会社暮らしの編集室）

寄附額：200万4,000円 寄附件数：124件

皆様のご支援・ご協力をいただき、オープンしたシェアキッチン「中庭」。毎月開催しているジャズ喫茶では、近所の方がレコードを持ってコーヒーを飲み。体験企画では、子どもたちが目を輝かせて遊びに来てくれます。団地外の人もたくさん来てくださり、北本団地に引越す人や、空き店舗への出店を検討してくださる人など、未来へつながるきっかけが生まれ始めています。



「中庭」インスタグラム

・アウトアブランド (owland) 創設プロジェクト（提案者：owland）

寄附額：106万9,310円 寄附件数：59件

北本発のアウトアブランド「owland」は皆さんの多大なるご支援により、無事立ち上げることができ、開発した商品の一部はアウトイベントで活用したほか、災害時の物資として寄附させていただきました。今後も北本市役所芝生広場で行う &green market や子供公園での出店、ECサイトでの販売を通じ、北本市の緑豊かな環境をPRしてまいります。



「owland」インスタグラム

読むスピードや声の調子、声量もチェック

録音ブースにひとりで読むのは緊張するなあ



朗読・録音

雑音が入らないよう、朗読する人は録音ブースに入ります。録音機を操作する人が合図を送ってから、記事を読み上げます。

ゲラを持ち帰り、各自練習!

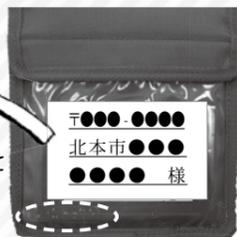


ゲラ割り

広報きたもとのゲラを確認し、誰がどのページを担当するかを決めます。

〒364-0034
北本市高尾1丁目180番地
北本市総合福祉センター御中

聞き終わったら宛名カードを裏返してポストへ投函で返却できます!



点字で「かばざくら」と打ってあります。

郵送

CDを専用の袋に入れて郵送します。

MP3対応のCDプレーヤーで再生できます



CD作成

市の職員が録音データを焼き付けたマスターCDをもとに、「かばざくら」の皆さんがお届けする人数分のCDをコピーします。

「声の広報」ができるまで

「声の広報」を聴いている方からお礼のお手紙いただいた時は本当に嬉しかったです! 私たちの情報が必要とする人がひとりでもいる限り、続けていきたいですね。

広報きたもとを朗読する際は、原文のとおり読むのが原則。ですが、目が見えない人にも伝わるよう読み方を工夫したり、写真や図等の説明も独自に加えています。「私たちは、とにかく聞いてくれる人によく伝わるように、聞いてくれている人の顔を思い浮かべて朗読するようにしています」「『かばざくら』に参加して33年になる閑野道子さんはこう話します。皆さんが活動に参加するきっかけは様々。「声を使うことが好きで」「仕事を退職し、人の役に立つことをしたい」と思ったり。始めてみると朗読の難しさと、それゆえの面白さを感じるようになるそうです。「うまく読めた」と思ったりは少ないけれど、だからこそ、次はもっとうまく読もう」と思うのだとか。また、「番やりがいを感じるのには「聴いてくれる人がいること」。感想を聞くことが励みになるそうです。会長の宮田怜子さんは視覚障がいのある人との交流を心がけています。「視覚障がいのある方々の生活を知ることがわかるようになっていきます。『声の広報』はその中でも大切な情報源。少しでもわかりやすく聞いていただくよう、日々努力しています」

視覚障がいがあり、「声の広報」を聞きたい人は社会福祉協議会へご相談ください

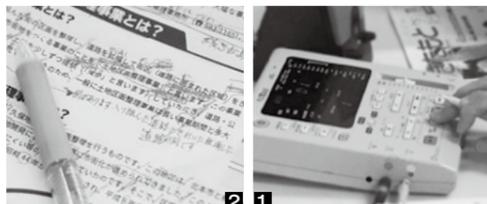
「声の広報」を希望する人にお届けします。北本市社会福祉協議会(☎593-2961)へご連絡ください。また、中央図書館で貸出も行っています(※)。

※中央図書館で借りる場合は、原則として視覚障がいがあり、障害者手帳をお持ちの人に限りです。詳しくは中央図書館(☎592-0795)へお問い合わせください。

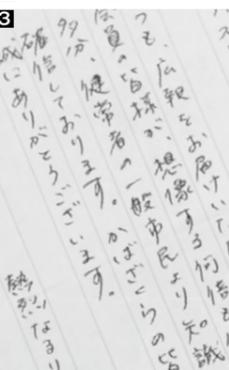
★「かばざくら」会員も募集中!

活動に興味のある人は、北本市社会福祉協議会へご連絡の上、総合福祉センターへ見学にお越しください。

声を出すのは楽しいですよ! 仲間と出会えるし、軽い気持ちでぜひ来てみてください!



1 声の広報の録音に使用する「DR-1」。2 読むときの区切りや原文に追加する説明を書き込んだゲラ。3 「声の広報」の「熱烈なるリスナー」の方からいただいたお礼の手紙。



朗読ボランティアグループ

かばざくら

昭和56年に会員10人でスタート。翌年から「広報きたもと」の音声版「声の広報」テープ(のちにCD化)を毎月作成し、市内で視覚障がいのある方等へ届け続けています。平成24年には、長年にわたって社会に奉仕する活動(ボランティア活動)に従事し、顕著な実績を挙げた方に与えられる「緑綬褒章」を国から授与されました。

会員数 20人

活動場所 総合福祉センター

朗読しているもの

その他の活動

「広報きたもと」(毎月)
「やさしい手」(社協だより、年4回)
「四季のたより」(「かばざくら」オリジナルのCD)

市内の小学6年生対象に「被爆体験記・原爆詩」を朗読
社会福祉大会の司会

特集2

声 で伝える、 繋がる。

市長公室シニアプロモーション・広報担当(☎594-5505)



「こんにちは。日ごとに寒さが増しておりますが、冬支度はお進みでしょうか。」
広報きたもとの音声版「声の広報」の冒頭に流れるこのメッセージ。リスナーの皆さんへ向け、季節や世の中の動きに関する話題を入れるようにしているそうです。この「声の広報」を作成しているのは、朗読ボランティアグループ「かばざくら」の皆さん。市の情報は障がいの有無に関わらず全市民が知るべき」との思いから、自発的に活動を開始。広報きたもとを朗読・録音した「声の広報」等を視覚障がいのある人に届け続けて、今年で40年目を迎えます。